

# 平成２８年度 第３回市川市教育振興審議会

平成２８年７月１１日(月) ９時３０分

市川市教育委員会 会議室

## 次 第

### １ 臨時委員委嘱状交付

### ２ 挨拶 大嶋 章一 教育振興審議会副会長

### ３ 諮問

市川市立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する方針について

### ４ 議事

- 市川市の教育の現状について
- 適正規模に関する方針検討の視点について
- 市川市立小学校・中学校の適正規模に関する方針の策定までの流れについて

### ５ その他

《第４回 市川市教育振興審議会開催日時》

平成２８年８月２２日（月） １３時３０分～１６時００分

場所：市川市教育委員会会議室（南八幡仮設庁舎２階）

# 平成28年度 市川市教育振興審議会

## 【委員】

| 氏名     | 分野   | 役職名                          |
|--------|------|------------------------------|
| 天竺 茂   | 1号委員 | 学識経験者 千葉大学 教育学部 教授           |
| 田中 孝一  | 1号委員 | 学識経験者 川村学園女子大学 教育学部 教授       |
| 渡邊 智子  | 1号委員 | 学識経験者 千葉県立保健医療大学 健康科学部 教授    |
| 前田 泰弘  | 1号委員 | 学識経験者 和洋女子大学 人文学群 教授         |
| 大嶋 章一  | 2号委員 | 教育関係者 市川市立第八中学校長             |
| 齊藤 雅代  | 2号委員 | 教育関係者 市川市立大洲幼稚園長             |
| 湯浅 国匡  | 3号委員 | 幼稚園及び小中特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の保護者 |
| 晒科 里美  | 3号委員 | 幼稚園及び小中特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の保護者 |
| 角谷 好枝  | 4号委員 | 地域における教育の向上に資する活動を行う者        |
| 中村 ふじ江 | 4号委員 | 地域における教育の向上に資する活動を行う者        |

## 【臨時委員】

| 氏名    | 分野   | 役職名                   |
|-------|------|-----------------------|
| 貞広 斎子 | 1号委員 | 学識経験者 千葉大学 教育学部 教授    |
| 柳澤 要  | 1号委員 | 学識経験者 千葉大学大学院工学研究科 教授 |

市川第 20160620-0086 号

平成 28 年 7 月 11 日

市川市教育振興審議会

会 長 天笠 茂 様

市川市教育委員会

教育長 田中 庸恵



市川市立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する方針について（諮問）

市川市教育振興審議会条例第 2 条第 1 項の規定に基づき、下記の事項について、貴審議会の意見を求めます。

## 記

### 1 諮問事項

市川市立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する方針について

### 2 諮問理由

市川市立小学校及び中学校については、特定の学校の大規模化や小規模化など、規模の違う学校が併存する状況にあります。学校の規模によって、児童生徒数が少ない、または多いことによる利点もあると同時に、教育上の課題も生じてきます。

特に少子化の進展が予測される本市においては、学校が過度に小規模化することによって、児童生徒が生きる力を育むために、多様な考えに触れたり、切磋琢磨したりすることの出来る一定規模の集団が確保されないなど、教育条件への影響が懸念されます。

このような状況にあって、これからも児童生徒の教育条件をより良いものにし、生きる力を育むことのできる学校教育を保障するためには、将来的な視野に立って、学校規模の適正化に係る検討が必要となっています。

このことから、市立小学校・中学校の適正規模・適正配置の方針策定を本市教育振興の重要な課題と捉え、貴審議会の意見を求めるものです。

## 市川市立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する方針について

### 1 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き

#### (1) 手引きの通知

国は平成27年1月に、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を作成し、各市町村に通知しました。

手引きでは、「今後、少子化が更に進むことが予想される中、義務教育の機会均等や水準の維持・向上の観点を踏まえ、学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応が将来にわたって継続的に検討していかなければならない重要な課題であるとの認識が広がっており、各設置者において、それぞれの地域の実情に応じた最適な学校教育の在り方や学校規模を主体的に検討することが求められています。」としています。

#### ○ 少子化の進展等の状況変化

- ・ 我が国全体の人口問題に視点を当てると、我が国は2008年（平成20年）をピークに人口減少局面に入っているという状況が見てとれます。合計特殊出生率は低水準で推移しており、2050年（平成62年）には人口が1億人を割り込み、約9,700万人になるとの推計もあり、これに伴って人口の地域的な偏在が加速することが予測されています。
- ・ また、年少（0～14歳）人口についても、1980年代初めの2,700万人規模から減少を続けており、2015年（平成27年）に1,500万人台に減少し、2046年（平成58年）には1,000万人台を割り込み、2060年（平成72年）にはおよそ791万人になることが推計されています。これらの背景の下、小・中学校が過度に小規模化したり教育条件への影響が出たりすることが懸念されています。
- ・ さらに、地域コミュニティの衰退、三世帯同居の減少、共働き世帯や一人親世帯の増加、世帯当たりの子供の数の減少といった様々な背景の中で、家庭や地域における子供の社会性育成機能が弱まっているため、学校が小規模であることに伴う課題が、かつてよりも一層顕在化しているとの指摘があります。

#### ○ 市町村における検討状況

- ・ 以上で述べてきた少子化に伴う学校の小規模化への対応を市町村ごとに見ると、必要な検討が既に行われている地域もある一方で、様々な事情から検討が進んでいない地域もあります。国全体として見た場合、標準規模を大きく下回る学校が相当数存在している状況です。こうした小規模校には、個別指導が行いやすい等の利点もある一方、社会性の育成に制約が生じることをはじめ、教育指導上多くの課題が存在しているところです。
- ・ 国が定める標準は「特別の事情があるときはこの限りでない」とされている弾力的なものですが、今後、少子化が更に進むことが予想される中、義務教育の機会均等や水準の維持・向上の観点から踏まえ、学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応が将来にわたって継続的に検討していかなければならない重要な課題であるとの認識が広がっており、各設置者において、それぞれの地域の実情に応じた最適な学校教育の在り方や学校規模を主体的に検討することが求められています。

#### (2) 国が定める標準

#### ○ 学校教育法施行規則

- ・ 第41条  
小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があるときは、この限りではない。
- ・ 第79条  
第41条の規定は、中学校に準用する。

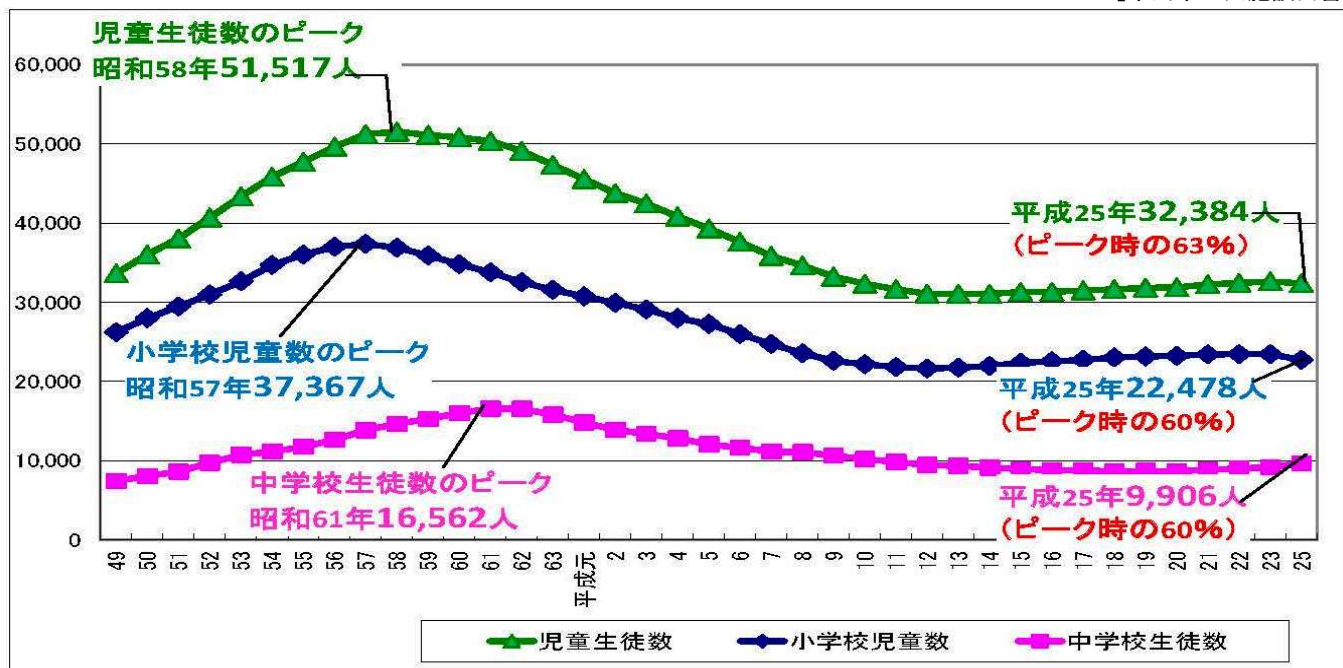
## 2 市川市の現状（少子化の進展）

### （１）児童生徒数の状況

児童生徒数の状況をみると、小中学校の児童生徒数は、昭和58年度の5.2万人をピークに平成12年度まで減少傾向にありました。平成12年度を境に微増傾向に転じ、平成25年5月1日時点では、3.2万人とピーク時の約63%となっています。

図表 児童生徒数の推移

【市川市公共施設白書】

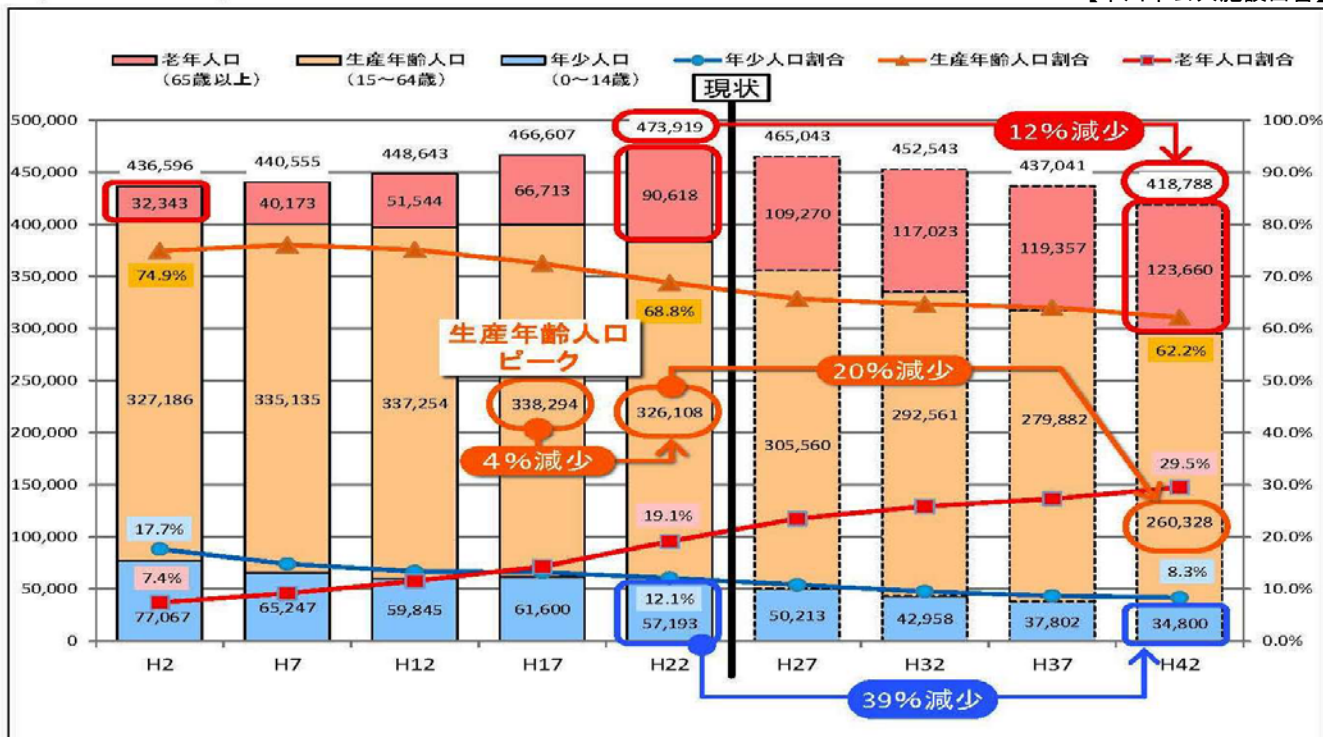


### （２）年齢階層別の将来人口推計

将来人口推計をみると、平成42年までに人口が約12%減少すると予測されています。年少人口は平成42年で約3.5万人と、約2.2万人減少すると予測されています。

図表 将来人口推計

【市川市公共施設白書】



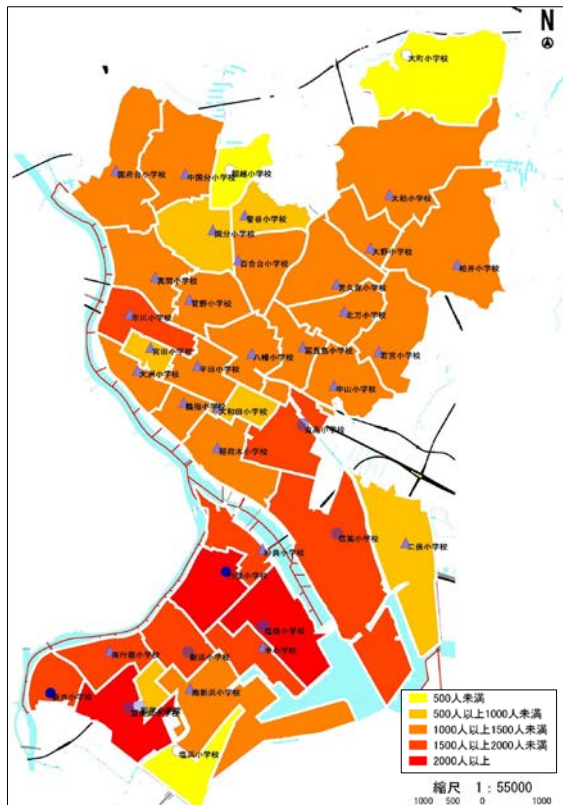
※平成22年までは国勢調査による実数値であり、総人口には年齢不詳も含まれます。

出典：市川市将来人口推計（平成24年度）

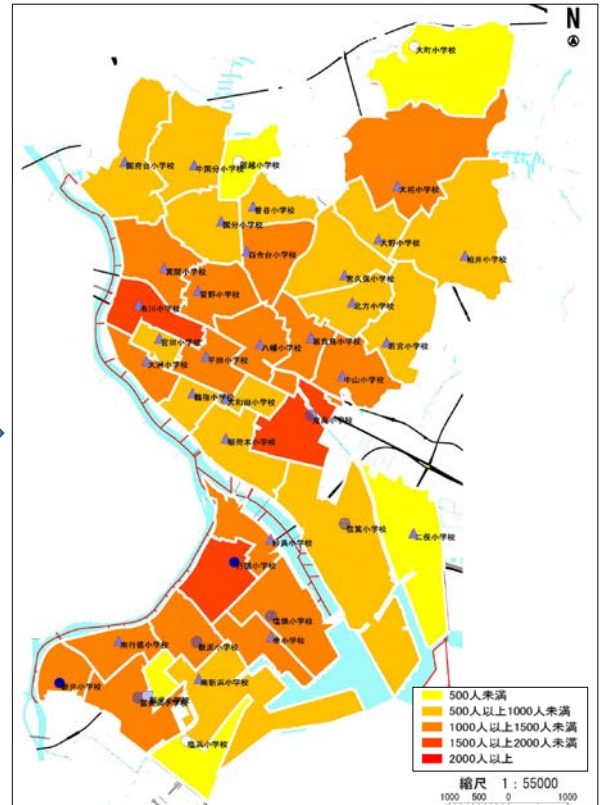
### (3) 小学校及び中学校の学区別年少人口の推移予測

市川市の現況と10年後【年少人口(0歳～14歳)の推移・小学校クラス数】

平成27年度年少人口分布【小学校区】



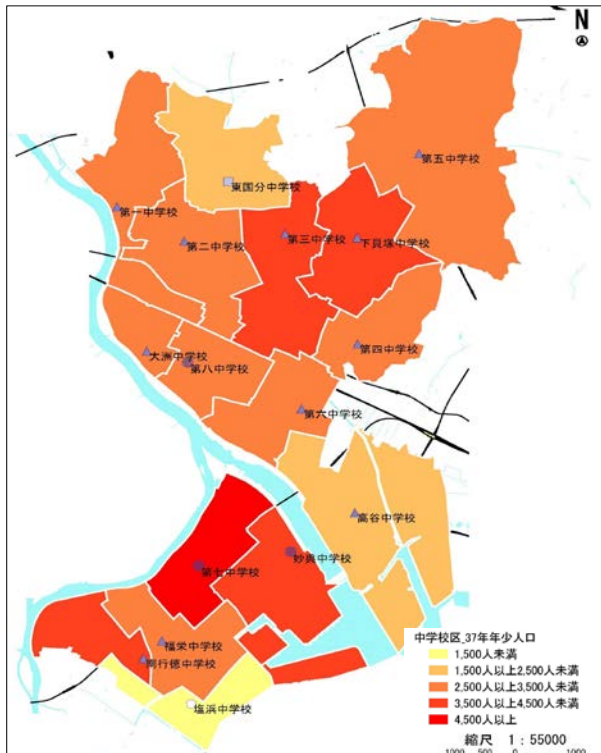
平成37年度年少人口分布【小学校区】



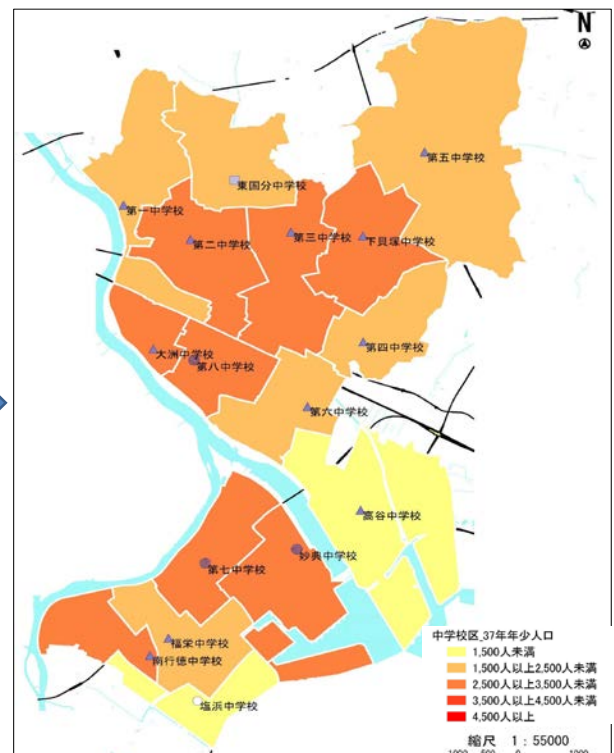
- ・年少人口の減少が著しい地域がある。【市内南部・北東部】
- ・空クラスが大量に生じる恐れのある学校がある。【行徳小、信篤小、新浜小、富美浜小、新井小、南新浜小】

市川市の現況と10年後【年少人口(0歳～14歳)の推移・中学校クラス数】

平成27年度年少人口分布【中学校区】



平成37年度年少人口分布【中学校区】



- ・年少人口の減少が著しい地域がある。【市内南部・北東部・北西部】
- ・全ての中学校で空クラスが生じる可能性が高い。

## (4) 小中学校の学区域年少人口及び学校別在籍者数の予測（在籍者数の予測及び増減率は参考値）

| 番号 | 学校名        | 住所          | 年少人口  |         | 在籍者数  |          |         |
|----|------------|-------------|-------|---------|-------|----------|---------|
|    |            |             | H27年□ | H37年□推計 | H27年□ | H37年(参考) | 増減率(参考) |
| 1  | 市川小学校      | 市川2-32-5    | 1638  | 1664    | 566   | 575      | 2%      |
| 2  | 真間小学校      | 真間4-1-1     | 1121  | 1224    | 528   | 577      | 9%      |
| 3  | 中山小学校      | 中山1-1-5     | 1369  | 1126    | 613   | 504      | -18%    |
| 4  | 八幡小学校      | 八幡3-24-1    | 1229  | 1097    | 618   | 552      | -11%    |
| 5  | 国分小学校      | 東国分2-4-1    | 866   | 619     | 293   | 209      | -29%    |
| 6  | 大柏小学校      | 大野町2-1877   | 1411  | 1004    | 675   | 480      | -29%    |
| 7  | 宮田小学校      | 新田4-8-15    | 926   | 888     | 369   | 354      | -4%     |
| 8  | 富貴島小学校     | 八幡6-10-11   | 1193  | 1015    | 511   | 435      | -15%    |
| 9  | 若宮小学校      | 若宮3-54-10   | 1275  | 978     | 550   | 422      | -23%    |
| 10 | 国府台小学校     | 国府台5-25-4   | 1282  | 798     | 634   | 395      | -38%    |
| 11 | 平田小学校      | 平田3-28-1    | 1379  | 1259    | 390   | 356      | -9%     |
| 12 | 鬼高小学校      | 鬼高2-13-5    | 1991  | 1518    | 964   | 735      | -24%    |
| 13 | 菅野小学校      | 菅野6-14-1    | 1386  | 1278    | 528   | 487      | -8%     |
| 14 | 行徳小学校      | 富浜1-1-40    | 2184  | 1508    | 1082  | 747      | -31%    |
| 15 | 信篤小学校      | 原木2-16-1    | 1593  | 785     | 858   | 423      | -51%    |
| 16 | 稲荷木小学校     | 稲荷木1-14-1   | 1112  | 868     | 396   | 309      | -22%    |
| 17 | 南行徳小学校     | 欠真間1-6-38   | 1581  | 1054    | 693   | 462      | -33%    |
| 18 | 鶴指小学校      | 大和田4-11-1   | 1012  | 975     | 426   | 410      | -4%     |
| 19 | 宮久保小学校     | 宮久保5-7-1    | 1421  | 969     | 725   | 494      | -32%    |
| 20 | 二俣小学校      | 二俣678       | 713   | 466     | 331   | 216      | -35%    |
| 21 | 中国分小学校     | 中国分1-22-1   | 1106  | 695     | 525   | 330      | -37%    |
| 22 | 曾谷小学校      | 曾谷7-18-1    | 982   | 778     | 463   | 367      | -21%    |
| 23 | 大町小学校      | 大町84-10     | 318   | 224     | 119   | 84       | -30%    |
| 24 | 北方小学校      | 北方町4-1356-1 | 1049  | 785     | 243   | 182      | -25%    |
| 25 | 新浜小学校      | 行徳駅前4-5-1   | 1541  | 1036    | 884   | 594      | -33%    |
| 26 | 百合台小学校     | 曾谷6-10-1    | 1321  | 1072    | 507   | 411      | -19%    |
| 27 | 富美浜小学校     | 南行徳2-3-1    | 2076  | 1388    | 854   | 571      | -33%    |
| 28 | 柏井小学校      | 柏井町1-1149-1 | 1283  | 913     | 543   | 386      | -29%    |
| 29 | 大洲小学校      | 大洲4-18-1    | 1416  | 1360    | 519   | 498      | -4%     |
| 30 | 幸小学校       | 幸1-11-1     | 1571  | 1071    | 567   | 387      | -32%    |
| 31 | 新井小学校      | 新井1-18-13   | 1944  | 1308    | 989   | 665      | -33%    |
| 32 | 南新浜小学校     | 新浜1-26-1    | 1391  | 937     | 635   | 428      | -33%    |
| 33 | 大野小学校      | 南大野1-42-1   | 1309  | 924     | 792   | 559      | -29%    |
| 34 | 塩焼小学校      | 塩焼5-9-8     | 2133  | 1463    | 814   | 558      | -31%    |
| 35 | 稲越小学校      | 稲越町518-2    | 409   | 327     | 160   | 128      | -20%    |
| 36 | 塩浜学園(前期課程) | 塩浜4-5-1     | 406   | 270     | 150   | 100      | -33%    |
| 37 | 大和田小学校     | 大和田1-1-3    | 746   | 575     | 477   | 368      | -23%    |
| 38 | 福栄小学校      | 南行徳2-2-1    | 835   | 474     | 254   | 144      | -43%    |
| 39 | 妙典小学校      | 妙典2-14-2    | 1622  | 1112    | 706   | 484      | -31%    |
|    | 小学校 小計     |             | 50140 | 37805   | 21951 | 16387    | -25%    |

| 番号 | 学校名        | 住所        | 年少人口   |         | 在籍者数  |          |         |
|----|------------|-----------|--------|---------|-------|----------|---------|
|    |            |           | H27年□  | H37年□推計 | H27年□ | H37年(参考) | 増減率(参考) |
| 1  | 第一中学校      | 国府台2-7-1  | 2900   | 2348    | 662   | 536      | -19%    |
| 2  | 第二中学校      | 須和田2-34-1 | 3108   | 2876    | 666   | 616      | -7%     |
| 3  | 第三中学校      | 曾谷3-2-1   | 3984   | 3317    | 711   | 592      | -17%    |
| 4  | 第四中学校      | 中山1-11-1  | 2669   | 2145    | 645   | 518      | -20%    |
| 5  | 第五中学校      | 大野町3-1993 | 3012   | 2140    | 630   | 448      | -29%    |
| 6  | 第六中学校      | 鬼高3-16-1  | 2995   | 2280    | 674   | 513      | -24%    |
| 7  | 第七中学校      | 末広1-1-48  | 4752   | 3245    | 833   | 569      | -32%    |
| 8  | 第八中学校      | 大和田4-9-1  | 3107   | 2776    | 617   | 551      | -11%    |
| 9  | 下貝塚中学校     | 下貝塚3-13-1 | 3609   | 2562    | 738   | 524      | -29%    |
| 10 | 高谷中学校      | 高谷1627-4  | 2307   | 1252    | 463   | 251      | -46%    |
| 11 | 福栄中学校      | 福栄3-4-1   | 3357   | 2249    | 767   | 514      | -33%    |
| 12 | 東国分中学校     | 東国分3-5-1  | 2221   | 1635    | 270   | 199      | -26%    |
| 13 | 大洲中学校      | 大洲4-21-5  | 3118   | 2991    | 360   | 345      | -4%     |
| 14 | 塩浜学園(後期課程) | 塩浜4-6-1   | 978    | 653     | 138   | 92       | -33%    |
| 15 | 南行徳中学校     | 南行徳2-2-2  | 3772   | 2527    | 673   | 451      | -33%    |
| 16 | 妙典中学校      | 妙典5-22-1  | 4300   | 2946    | 950   | 651      | -31%    |
|    | 中学校 小計     |           | 50190  | 37942   | 9797  | 7370     | -25%    |
|    | 小・中学校 合計   |           | 100330 | 75747   | 31748 | 23757    | -25%    |

|  |    |         |          |         |
|--|----|---------|----------|---------|
|  | 増加 | 0～19%減少 | 20～39%減少 | 40%以上減少 |
|--|----|---------|----------|---------|

### 3 少子化の進展による教育上の課題

少子化が進展し、学校が小規模化することによって、児童生徒が生きる力を育むために、多様な考えに触れたり、切磋琢磨したりすることの出来る一定規模の集団が確保されないなど、教育条件への影響が懸念されます。

#### (1) 学校の小規模化、及び大規模化によって生じる課題（公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きより）

##### ① 学級数が少ないことによる学校運営上の課題

- クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- クラブ活動や部活動の種類が限定される
- 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- 男女比の偏りが生じやすい
- 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
- 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- 班活動やグループ分けに制約が生じる
- 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
- 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
- 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
- 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

##### ② 学級数が少ないことによる学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

- 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- 協働的な学びの実現が困難となる
- 教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある
- 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- 教員への依存心が強まる可能性がある
- 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある
- 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい
- 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい

### ③ 教職員数が少なくなることによる学校運営上の課題

- 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる
- 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある
- 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる
- ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる
- 教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない
- 学年によって学級数や学級当たりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生ずる
- 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる
- 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい（学年会や教科会等が成立しない）
- 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある
- 免許外指導の教科が生まれる可能性がある
- クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる

### ④ 学校規模が大きくなることによって生じる課題

- 学校行事等において、係や役割分担のない子供が現れる可能性があるなど、一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合がある
- 集団生活においても同学年の結び付きが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある
- 同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒間の人間関係が希薄化する場合がある
- 教員集団として、児童生徒一人一人の個性や行動を把握し、きめ細かな指導を行うことが困難であり、問題行動が発生しやすい場合がある
- 児童生徒一人当たりの校舎面積、運動場面積等が著しく狭くなった場合、教育活動の展開に支障が生じる場合がある
- 特別教室や体育館、プール等の利用に当たって授業の割当てや調整が難しくなる場合がある
- 学校運営全般にわたり、校長が一体的なマネジメントを行ったり、教職員が十分な共通理解を図ったりする上で支障が生じる場合がある

(2) 現在の学校規模及び学級規模における実態【補助資料参照】

① 学校規模及び学級規模に関する実態調査の結果

- 現在の学校規模及び学級規模における実態について、教育的な視点、運営的な視点、財政的な視点から現状調査を行なった結果、規模によって差異が認められなかった項目、及び差異が認められ、課題があると考えられる項目は表1の通りです。

【表1】

| 視点          |                      | 小・中学校共に、規模による差異が認められない項目                                                     | 規模による差異が認められ、課題があると考えられる項目                         |                                                |                                                                      |                                                          |
|-------------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
|             |                      |                                                                              | 学校規模                                               |                                                | 学級規模                                                                 |                                                          |
|             |                      |                                                                              | 小学校                                                | 中学校                                            | 小学校                                                                  | 中学校                                                      |
| 1<br>教育的な視点 | (1)<br>確かな学力         | ①学習の状況<br>・学習・授業の理解<br>・言語活動<br>②学習への関わり                                     |                                                    |                                                |                                                                      |                                                          |
|             | (2)<br>豊かな心          | ①人との関わり                                                                      | ②自尊意識<br>③規範意識<br>④学校生活                            |                                                | ②自尊意識<br>④学校生活                                                       | ④学校生活                                                    |
|             | (3)<br>健やかな体         | ②体力の状況                                                                       |                                                    | ①運動への関わり                                       |                                                                      |                                                          |
| 2<br>運営的な視点 | (1)<br>学習指導          | ①学習規律<br>②指導形態<br>・教科担任制<br>・少人数学習<br>・チーム・ティーチング<br>③指導方法<br>・言語活動<br>⑥補充学習 | ④施設・教材活用<br>・教材活用<br>⑤地域人材の活用                      |                                                | ③指導方法<br>・課題解決的な学習<br>⑤地域人材の活用                                       | ③指導方法<br>・課題解決的な学習<br>④施設・教材活用<br>・施設活用                  |
|             | (2)<br>生徒指導          | ①児童生徒の主体性を高める活動<br>②児童生徒の把握<br>・家庭学習                                         | ②児童生徒の把握<br>・学校生活                                  | ②児童生徒の把握<br>・学校生活<br>③交流活動                     | ②児童生徒の把握<br>・学校生活                                                    | ②児童生徒の把握<br>・学校生活                                        |
|             | (3)<br>職員体制          | ①協力・共有体制<br>・協力体制<br>・情報の共有                                                  | ②研修・行事等への対応体制<br>・研修等への対応<br>・行事等への対応<br>③教職員の配置状況 | ③教職員の配置状況                                      | ②研修・行事等への対応体制<br>・行事等への対応                                            |                                                          |
|             | (4)<br>保護者・地域への対応の面  | ②地域に対する学校環境                                                                  | ①保護者に対する学校環境                                       | ①保護者に対する学校環境                                   | ①保護者に対する学校環境                                                         | ①保護者に対する学校環境                                             |
|             | (5)<br>学校・学級の適正規模の印象 |                                                                              | ②保護者の印象<br>・学校行事・学年活動<br>③教職員の印象<br>・学校行事・学年活動     | ②保護者の印象<br>・学校行事・学年活動<br>③教職員の印象<br>・学校行事・学年活動 | ①児童生徒の印象<br>②保護者の印象<br>・学校行事・学年活動<br>・学習・学級活動<br>③教職員の印象<br>・学習・学級活動 | ②保護者の印象<br>・学校行事・学年活動<br>・学習・学級活動<br>③教職員の印象<br>・学習・学級活動 |
| 3<br>財政的な視点 |                      |                                                                              | ①児童生徒一人当たりの配当額<br>②1学級あたりの配当額                      | ①児童生徒一人当たりの配当額<br>②1学級あたりの配当額                  |                                                                      |                                                          |

② 学校規模の実態（学校規模が小さくなること、及び大きくなることによって生じる課題）

- 規模によって差異が認められ、課題があると考えられる項目について、学校規模別に現状をまとめたものが表2です。課題があると考えられる学校規模の範囲を朱色で示しています。

【表2】

| 小学校                 | 学校規模(学級数)                                     | 1 | 2                           | 3                | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12                             | 13   | 14 | 15                   | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21          | 22      | 23 | 24                           | 25                  | 26 | 27 | 28 | 29                           | 30    | 31 |  |  |     |
|---------------------|-----------------------------------------------|---|-----------------------------|------------------|---|---|---|---|---|---|----|----|--------------------------------|------|----|----------------------|----|----|----|----|----|-------------|---------|----|------------------------------|---------------------|----|----|----|------------------------------|-------|----|--|--|-----|
| 市川市の現状<br>1 教育的な視点  | (2)豊かな心②自尊意識<br>自尊意識                          |   | 学級数が少ないほど低い                 |                  |   |   |   |   |   |   |    |    |                                |      |    |                      |    |    |    |    |    | 学級数が多いほど高い  |         |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
|                     | (2)豊かな心③規範意識<br>いじめの認知件数                      |   | 学級数が少ないほど多い                 |                  |   |   |   |   |   |   |    |    |                                |      |    |                      |    |    |    |    |    | 学級数が多いほど少ない |         |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
|                     | (2)豊かな心④学校生活<br>不登校の出現率                       |   |                             |                  |   |   |   |   |   |   |    |    |                                |      |    |                      |    |    |    |    |    | 増え始める       |         |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
| 市川市の現状<br>2 運営的な視点  | (1)学習指導④教材活用<br>パソコン教材の活用                     |   | 学級数が少ないほど多い                 |                  |   |   |   |   |   |   |    |    |                                |      |    |                      |    |    |    |    |    | 学級数が多いほど少ない |         |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
|                     | (1)学習指導⑤地域人材の活用<br>地域人材の活用(授業補助)              |   |                             |                  |   |   |   |   |   |   |    |    |                                |      |    |                      |    |    |    |    |    | 少なくなる       |         |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
|                     | (2)生徒指導②児童生徒の把握<br>子どもと向き合う時間(職員の意識)          |   | 学級数が少ないほど多い                 |                  |   |   |   |   |   |   |    |    |                                |      |    |                      |    |    |    |    |    | 学級数が多いほど少ない |         |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
|                     | (3)職員体制②研修会等への対応<br>職員の研修会参加                  |   | 学級数が少ないほど低い                 |                  |   |   |   |   |   |   |    |    |                                |      |    |                      |    |    |    |    |    | 学級数が多いほど高い  |         |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
|                     | (3)職員体制②行事等への対応<br>職員数に対する職員の印象               |   | 「今よりも多い方が良い」80%             |                  |   |   |   |   |   |   |    |    |                                |      |    |                      |    |    |    |    |    |             |         |    |                              | 「今より少ない方が良い」割合が多くなる |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
|                     | (3)職員体制③教職員の配置状況<br>1学級あたりの教職員数               |   | 学級数が少ないほど多い(1.5人以上)         |                  |   |   |   |   |   |   |    |    | 学級数が多いほど少ない(1.5人以下)            |      |    |                      |    |    |    |    |    |             |         |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
|                     | (3)職員体制③教職員の配置状況<br>1学年あたりの担任外教職員数            |   | 学級数が少ないほど少ない(0.5人以上1.5人未満)  |                  |   |   |   |   |   |   |    |    |                                |      |    | 学級数が多いほど多い(1人以上3人以下) |    |    |    |    |    |             |         |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
|                     | (4)保護者への対応①学校環境<br>保護者のPTA活動への参加              |   | 学級数が少ないほど高い                 |                  |   |   |   |   |   |   |    |    | 学級数が多いほど低い                     |      |    |                      |    |    |    |    |    |             | より少なくなる |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
|                     | (4)保護者への対応①学校環境<br>保護者が学校行事に参加したり相談したりするときの印象 |   | 50%以上                       | 「今より多い方が良い」30%以上 |   |   |   |   |   |   |    |    |                                |      |    |                      |    |    |    |    |    |             |         |    |                              | 「今より少ない方が良い」約25%以上  |    |    |    |                              | 50%以上 |    |  |  |     |
|                     | (5)適正規模の印象⑤保護者の印象<br>子どもが学校行事や学年活動を行う時の印象     |   | 「今より多い方が良い」40%以上            |                  |   |   |   |   |   |   |    |    | 30%以上                          | 適正規模 |    |                      |    |    |    |    |    |             |         |    |                              |                     |    |    |    | 「今より少ない方が良い」25%以上            |       |    |  |  | 50% |
|                     | (5)適正規模の印象⑤教職員の印象<br>子どもが学校行事や学年活動を行う時の印象     |   | 「今より多い方が良い」20%以上<br>課題のある規模 |                  |   |   |   |   |   |   |    |    |                                |      |    |                      |    |    |    |    |    |             |         |    | 「今より少ない方が良い」60%以上<br>課題のある規模 |                     |    |    |    | 「今より少ない方が良い」80%以上<br>課題のある規模 |       |    |  |  |     |
| 市川市の現状<br>3 運財政的な視点 | 児童一人当たりの配当額                                   |   | 最多学校規模の2倍以上                 |                  |   |   |   |   |   |   |    |    | 学級数が少ないほど少ない(学級数の増加に伴う減少幅は少ない) |      |    |                      |    |    |    |    |    |             |         |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |
|                     | 1学級あたりの配当額                                    |   | 最多学校規模の2倍以上                 |                  |   |   |   |   |   |   |    |    | 学級数が少ないほど少ない(学級数の増加に伴う減少幅は少ない) |      |    |                      |    |    |    |    |    |             |         |    |                              |                     |    |    |    |                              |       |    |  |  |     |

| 中学校                                       | 学校規模(学級数)                                     | 1                           | 2                  | 3           | 4 | 5 | 6 | 7           | 8   | 9 | 10 | 11 | 12                             | 13 | 14 | 15 | 16                | 17         | 18 | 19                   | 20 | 21               | 22                           | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |  |       |       |       |
|-------------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------|--------------------|-------------|---|---|---|-------------|-----|---|----|----|--------------------------------|----|----|----|-------------------|------------|----|----------------------|----|------------------|------------------------------|----|----|----|----|----|--|-------|-------|-------|
| 市川市の現状<br>1 教育的な視点                        | (3)健やかな心①運動への関わり<br>休み時間に外へ出て遊ぶ               |                             |                    |             |   |   |   |             |     |   |    |    |                                |    |    |    |                   |            |    |                      |    |                  |                              |    |    |    |    |    |  |       |       | 少なくなる |
| 市川市の現状<br>2 運営的な視点                        | (2)生徒指導②児童生徒の把握<br>「先生は気軽に相談に乗ってくれる」と感じる児童生徒  |                             | 学級数が少ないほど低い        |             |   |   |   |             |     |   |    |    |                                |    |    |    |                   |            |    |                      |    | 学級数が多いほど高い       |                              |    |    |    |    |    |  |       |       |       |
|                                           | (2)生徒指導②児童生徒の把握<br>子どもと向き合う時間(職員の意識)          |                             | 学級数が少ないほど多い        |             |   |   |   |             |     |   |    |    | 学級数が多いほど少ない                    |    |    |    |                   |            |    |                      |    |                  | より少なくなる                      |    |    |    |    |    |  |       |       |       |
|                                           | (2)生徒指導③交流活動<br>異学年交流活動                       |                             | 学級数が少ないほど少ない       |             |   |   |   |             |     |   |    |    |                                |    |    |    |                   |            |    |                      |    | 学級数が多いほど多い       |                              |    |    |    |    |    |  |       |       |       |
|                                           | (3)職員体制③教職員の配置状況<br>1学級あたりの教職員数               |                             | 学級数が少ないほど多い(2人以上)  |             |   |   |   |             |     |   |    |    |                                |    |    |    | 学級数が多いほど少ない(2人以下) |            |    |                      |    |                  |                              |    |    |    |    |    |  |       |       |       |
|                                           | (3)職員体制③教職員の配置状況<br>1学年あたりの担任外教職員数            |                             | 学級数が少ないほど少ない(5人以下) |             |   |   |   |             |     |   |    |    |                                |    |    |    |                   |            |    | 学級数が多いほど多い(5人以上7人以下) |    |                  |                              |    |    |    |    |    |  |       |       |       |
|                                           | (4)保護者への対応①学校環境<br>学校が相談しやすい環境であると考える保護者      |                             | より高くなる             |             |   |   |   | 学級数が少ないほど高い |     |   |    |    |                                |    |    |    |                   | 学級数が多いほど低い |    |                      |    |                  |                              |    |    |    |    |    |  |       |       |       |
|                                           | (4)保護者への対応①学校環境<br>保護者が学校行事に参加したり相談したりするときの印象 |                             | 65%                | 「今より多い方が良い」 |   |   |   |             | 50% |   |    |    |                                |    |    |    |                   |            |    |                      |    |                  | 「今より少ない方が良い」30%              |    |    |    |    |    |  |       | 50%以上 |       |
|                                           | (5)適正規模の印象⑤保護者の印象<br>子どもが学校行事や学年活動を行う時の印象     |                             | 85%                | 「今より多い方が良い」 |   |   |   |             | 45% |   |    |    |                                |    |    |    |                   | 適正規模       |    |                      |    |                  | 「今より少ない方が良い」20%以上            |    |    |    |    |    |  | 50%以上 |       |       |
| (5)適正規模の印象⑤教職員の印象<br>子どもが学校行事や学年活動を行う時の印象 |                                               | 「今より多い方が良い」40%以上<br>課題のある規模 |                    |             |   |   |   |             |     |   |    |    |                                |    |    |    |                   |            |    |                      |    | 50%以上<br>課題のある規模 | 「今より少ない方が良い」70%以上<br>課題のある規模 |    |    |    |    |    |  |       |       |       |
| 市川市の現状<br>3 運財政的な視点                       | 児童一人当たりの配当額                                   |                             | 最多学校規模の2倍以上        |             |   |   |   |             |     |   |    |    | 学級数が少ないほど少ない(学級数の増加に伴う減少幅は少ない) |    |    |    |                   |            |    |                      |    |                  |                              |    |    |    |    |    |  |       |       |       |
|                                           | 1学級あたりの配当額                                    |                             | 最多学校規模の2倍以上        |             |   |   |   |             |     |   |    |    | 学級数が少ないほど少ない(学級数の増加に伴う減少幅は少ない) |    |    |    |                   |            |    |                      |    |                  |                              |    |    |    |    |    |  |       |       |       |

③ 学級規模の実態（学級規模が小さくなること、及び大きくなることによって生じる課題）

- 規模によって差異が認められ、課題があると考えられる項目について、学級規模別に現状をまとめたものが表3です。課題があると考えられる学級規模の範囲を朱色で示しています。

【表3】

| 小学校                | 学級規模(児童生徒数)                                       | 19以下                         | 20 | 21   | 22 | 23 | 24 | 25 | 26   | 27     | 28 | 29                | 30   | 31        | 32 | 33                    | 34                    | 35                    | 36 | 37 | 38以上 |
|--------------------|---------------------------------------------------|------------------------------|----|------|----|----|----|----|------|--------|----|-------------------|------|-----------|----|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----|----|------|
| 市川市の現状<br>1 教育的な視点 | (2)豊かな心②自尊意識<br>自尊意識                              | 低い                           |    |      |    |    |    |    | 高い   |        |    |                   |      |           |    |                       |                       |                       |    |    |      |
|                    | (2)豊かな心④学校生活<br>不登校の出現率                           |                              |    |      |    |    |    |    |      |        |    |                   |      | 増え始める     |    |                       |                       |                       |    |    |      |
| 市川市の現状<br>2 運営的な視点 | (1)学習指導③学習方法<br>課題解決的な学習の実施                       | 少ない                          |    |      |    |    |    |    | 多くなる |        |    |                   |      |           |    |                       |                       |                       |    |    |      |
|                    | (1)学習指導⑤地域人材の活用<br>授業補助                           | 人数が少ないほど多い                   |    |      |    |    |    |    |      |        |    | 人数が多いほど少ない        |      |           |    |                       |                       | より少なくなる               |    |    |      |
|                    | (2)生徒指導②児童生徒の把握<br>「先生は気軽に相談に乗ってくれる」と<br>感じる児童生徒  | 人数が少ないほど低い                   |    |      |    |    |    |    |      | より高くなる |    |                   |      | 人数が多いほど高い |    |                       |                       |                       |    |    |      |
|                    | (2)生徒指導②児童生徒の把握<br>子どもと向き合う時間(職員の意識)              | 人数が少ないほど多い                   |    |      |    |    |    |    |      |        |    | 人数が多いほど少ない        |      |           |    |                       |                       |                       |    |    |      |
|                    | (3)職員体制②行事等への対応<br>職員数に対する職員の印象                   | 「今より多<br>い方が良<br>い」80%<br>以上 |    |      |    |    |    |    |      |        |    |                   |      |           |    |                       |                       |                       |    |    |      |
|                    | (4)保護者への対応①学校環境<br>保護者のPTA活動への参加                  | 学級数が少ないほど高い                  |    |      |    |    |    |    |      |        |    | 学級数が多いほど低い        |      |           |    |                       |                       | より少なくなる               |    |    |      |
|                    | (4)保護者への対応①学校環境<br>保護者が学校行事に参加したり相談し<br>たりするときの印象 | 「今より多い方が良<br>い」60%以上         |    |      |    |    |    |    |      |        |    |                   |      |           |    |                       |                       | 「今より少ない方が<br>良い」20%以上 |    |    |      |
|                    | (5)適正規模の印象⑤児童生徒<br>学校生活を過ごす上での、学級の人<br>数の印象       | 「今より少ない方が良い」割合が低い            |    |      |    |    |    |    |      |        |    | 「今より少ない方が良い」割合が高い |      |           |    |                       |                       |                       |    |    |      |
|                    | (5)適正規模の印象⑤保護者の印象<br>子どもが学校行事や学年活動を行う<br>時の印象     | 「今より多い方が良<br>い」60%以上         |    |      |    |    |    |    |      |        |    |                   | 適正規模 |           |    |                       | 「今より少ない方が良<br>い」20%以上 |                       |    |    |      |
|                    | (5)適正規模の印象⑤保護者の印象<br>子どもが学習や学級活動を行う時の<br>印象       | 「今より多い方が良い」20%以上             |    |      |    |    |    |    |      | 適正規模   |    |                   |      |           |    | 「今より少ない方が良<br>い」40%以上 |                       |                       |    |    |      |
|                    | (5)適正規模の印象⑤教職員の印象<br>学級で学習や活動を行う時の印象              |                              |    | 適正規模 |    |    |    |    |      |        |    |                   |      |           |    |                       |                       |                       |    |    |      |

| 中学校                | 学級規模(児童生徒数)                                       | 19以下             | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27     | 28 | 29  | 30        | 31        | 32 | 33 | 34 | 35 | 36                    | 37                    | 38以上  |  |  |
|--------------------|---------------------------------------------------|------------------|----|----|----|----|----|----|----|--------|----|-----|-----------|-----------|----|----|----|----|-----------------------|-----------------------|-------|--|--|
| 市川市の現状<br>1 教育的な視点 | (2)豊かな心④学校生活<br>不登校の出現率                           |                  |    |    |    |    |    |    |    |        |    |     |           | 増え始める     |    |    |    |    |                       |                       |       |  |  |
| 市川市の現状<br>2 運営的な視点 | (1)学習指導③学習方法<br>課題解決的な学習の実施                       | 人数が少ないほど低い       |    |    |    |    |    |    |    |        |    |     | 人数が多いほど高い |           |    |    |    |    |                       |                       |       |  |  |
|                    | (1)学習指導④施設活用<br>理科室の活用                            |                  |    |    |    |    |    |    |    |        |    |     |           |           |    |    |    |    |                       | 少なくなる                 |       |  |  |
|                    | (2)生徒指導②児童生徒の把握<br>「先生は自分のことを知っている」と感<br>じる児童生徒   | 人数が少ないほど低い       |    |    |    |    |    |    |    |        |    |     | 人数が多いほど高い |           |    |    |    |    |                       |                       |       |  |  |
|                    | (2)生徒指導②児童生徒の把握<br>「先生は気軽に相談に乗ってくれる」と<br>感じる児童生徒  | 人数が少ないほど低い       |    |    |    |    |    |    |    | より高くなる |    |     |           | 人数が多いほど高い |    |    |    |    |                       |                       |       |  |  |
|                    | (4)保護者への対応①学校環境<br>保護者が学校行事に参加したり相談し<br>たりするときの印象 | 「今より多い方が良い」      |    |    |    |    |    |    |    |        |    | 50% | 65%以上     |           |    |    |    |    |                       | 「今より少ない方が<br>良い」20%以上 | 50%以上 |  |  |
|                    | (5)適正規模の印象⑤保護者の印象<br>子どもが学校行事や学年活動を行う<br>時の印象     | 「今より多い方が良い」45%以上 |    |    |    |    |    |    |    |        |    |     | 適正規模      |           |    |    |    |    | 「今より少ない方が<br>良い」20%以上 |                       |       |  |  |
|                    | (5)適正規模の印象⑤保護者の印象<br>子どもが学習や学級活動を行う時の<br>印象       | 「今より多い方が良い」      |    |    |    |    |    |    |    |        |    | 20% | 40%       | 適正規模      |    |    |    |    |                       | 「今より少ない方が<br>良い」40%以上 |       |  |  |
|                    | (5)適正規模の印象⑤教職員の印象<br>学級で学習や活動を行う時の印象              |                  |    |    |    |    |    |    |    | 適正規模   |    |     |           |           |    |    |    |    |                       |                       |       |  |  |

#### 4 市川市の現状（学校施設の老朽化）

学校施設は学校教育活動を行うための基本的な教育条件であるとともに、地域コミュニティの核としての性格や、災害時の避難所としての役割等を有する施設でもあり、学校施設の老朽化対策は重大な課題です。

国では、平成 25 年にインフラ長寿命化計画を策定し、個別施設毎の対応方針を定める計画の策定を、地方公共団体に求めています。

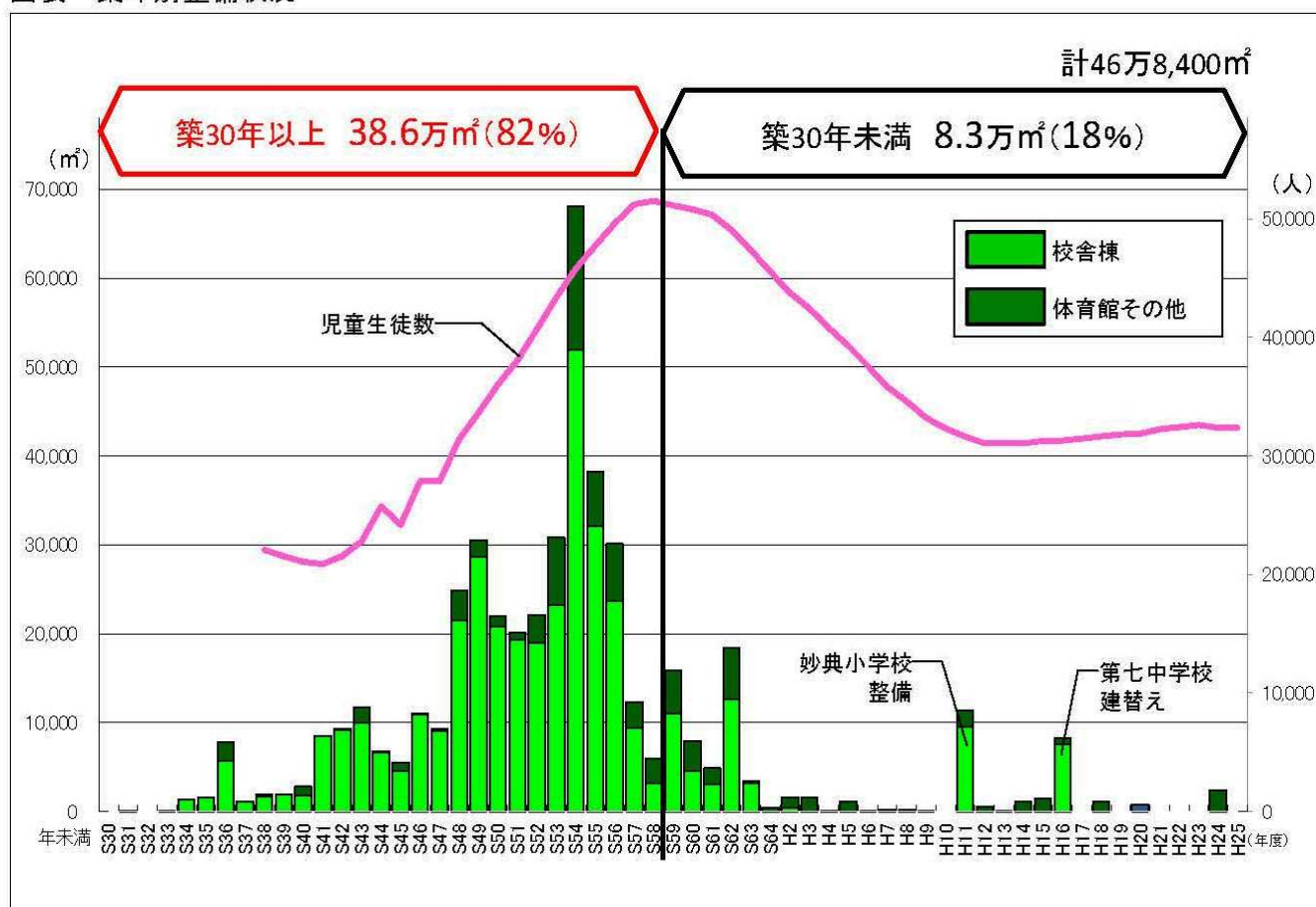
##### ① 施設の整備状況

小学校・中学校には、校舎や屋内運動場以外にも、プール付属棟や屋外トイレなど、様々な施設があり、それらを含めると学校施設は、約750棟、延床面積約46.8万㎡です。

整備状況をみると、昭和40年代以降、高度経済成長期の児童生徒数の急増に伴い、昭和60年代前半まで整備が行われました。平成に入って以降は、平成11年度に妙典小学校を整備、平成16年度に第七中学校の一部校舎の建替え等しか行っておらず、平成25年末日現在で、最も古い校舎（宮田小学校）が築54年を経過し、築30年以上を経過する建物が約8割を占めており、小学校・中学校全体で老朽化が非常に進行しています。

図表 築年別整備状況

【市川市公共施設白書】

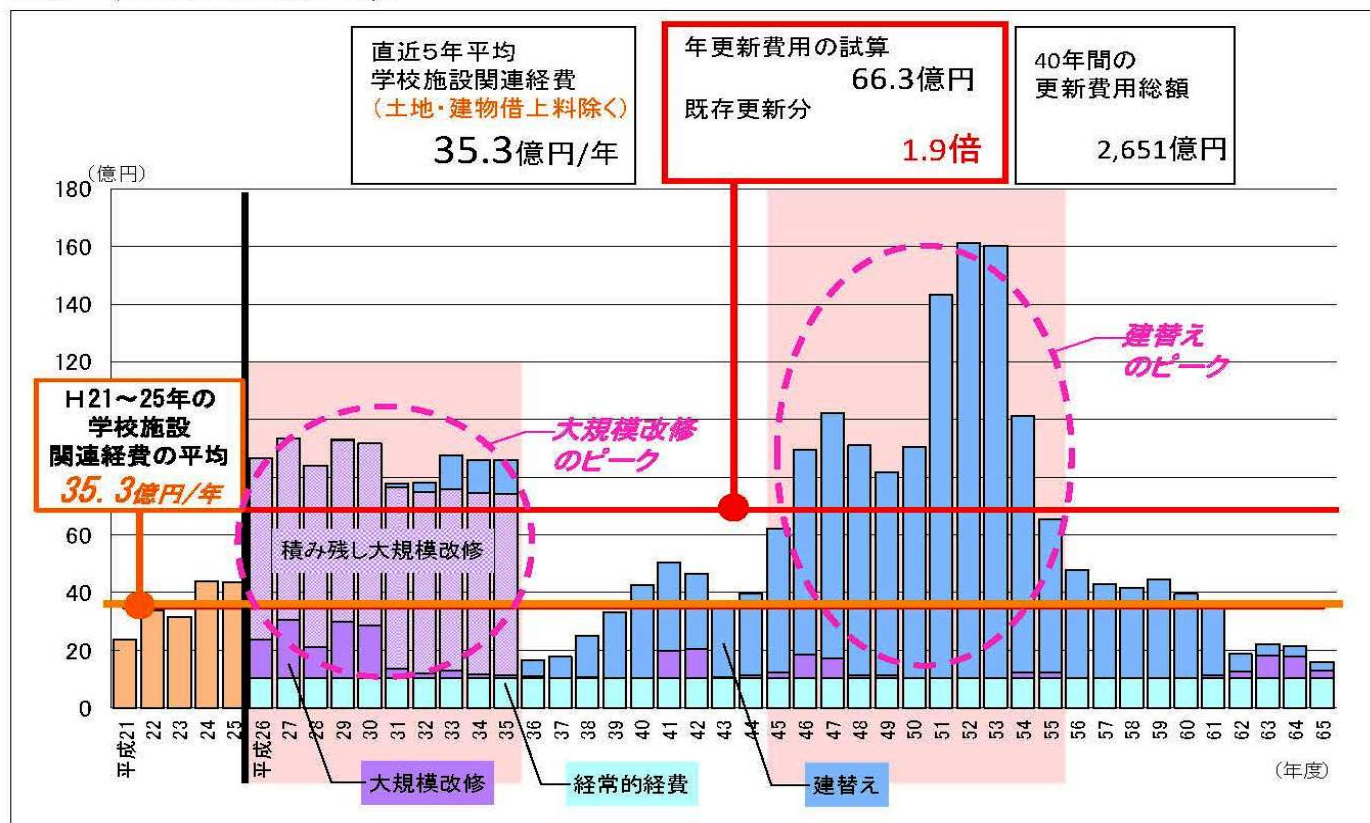


## ② 今後 40 年間にかかるコスト試算（シミュレーション）

今後40年間にかかるコストを試算すると、年平均66億円の費用が必要になります。これは、直近5年間の施設関連経費平均約35億円と比べると、毎年度約31億円不足する計算になります。特に、平成46年以降の建替えのピークに適切に対応していく必要があります。

図表 今後かかるコスト試算

【市川市公共施設白書】



### 《試算条件》

- 前提
  - 現状の施設規模・施設内容を維持することを前提としてコスト試算を行う。
  - 施設の統廃合による施設数の増減、および増減策による建物面積の増減については考慮していない。
- 条件
  - 建築物の耐用年数は60年と仮定する。
  - 建物附属設備及び配管の耐用年数が概ね15年であることから、2回目の改修時期である建設後30年で建築物の大規模改修を行い、さらにその後30年で建替えると仮定する。
  - 試算時点で、建設時からの経過年数が31年以上50年までの施設については、直近の10年間で均等に大規模改修を行うと仮定し、建設時より51年以上経過している施設については、建替えの時期が近いことから、大規模改修は行わずに60年を経過した年度に建替えることとする。

### c) 単価

|                | 建替え     | 大規模改修   |
|----------------|---------|---------|
| 学校教育系、子育て支援施設等 | 33 万円/㎡ | 17 万円/㎡ |

- 経常的経費は、平成21年度から平成25年度の5年間の経常的経費の平均値10.2億円とする。

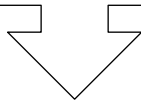
## ③ 市の対応

市川市の公共施設については、老朽化や財政負担、人口構成の変化などにより、公共施設全体について適正配置を進め、行政のスリム化や公共サービスを持続可能なものにするという考えのもと、安全対策、ニーズへの対応、財政対策を基本方針として、平成28年3月に公共施設等総合管理計画を策定しました。

同計画では、学校施設については、年少人口の減少を踏まえ、平成42年度までに、延べ床面積の20%を削減することを将来のあり方としています。

## 5 「市川市立小学校・中学校の適正規模に関する方針」検討の視点

- 1～4のような状況にあって、これからも児童生徒の教育条件をより良いものにし、生きる力を育むことのできる学校教育を保障するためには、将来的な視野に立って、学校規模の適正化に係る検討が必要となっています。



- 適正規模に関する方針に盛り込むべき事柄
- 検討の際に考慮すべき事柄

### 参考1：市川市のこれまでの考え方

- ・ 本市では、地域の実態として都市化が進んでいる状況があることから、1校当たりの学級数の適正規模を12学級以上24学級以下と考えている。
- ・ 大規模校（25学級以上）については、教育活動が活性化するということがあるが、校庭や体育館の使用が制限されることや、教室不足となり、少人数学習を行う教室が確保できないなどの課題がある。
- ・ 小規模校については、児童生徒数が少ないことを生かして1人1人の個性や特性に応じたきめ細かな指導を行うことや、家庭的で温かな人間関係づくりをすることなどのメリットがあるが、一般的に人間関係が固定化しやすく、社会性やよい意味での競争心が育ちにくいなどが懸念されている。また、中学校の部活動において、生徒の希望に合った部活動が成立しないなどの課題もある。

【2014年2月議会 学校教育部長答弁】

### 参考2：近隣市の状況

| 市名   | 方針等の名称                      | 策定年   |
|------|-----------------------------|-------|
| 船橋市  | 小中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針      | 平成24年 |
| 浦安市  | 浦安市における学校配置の適正化に向けての基本方針    | 平成21年 |
| 習志野市 | 学校施設再生計画                    | 平成26年 |
| 八千代市 | 小中学校の学校適正配置の考え方「学校適正配置の進め方」 | 平成22年 |

市川市立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する方針の策定までの流れ（案）

| 年  | 月     | 日  | 教育振興審議会                                                                                                                                                                                                                                  |
|----|-------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 28 | 7     | 11 | <p>○諮問：学校の適正規模・適正配置に関する方針</p> <p>○審議：学校の適正規模について①</p> <div> <p>○市川市の現状について</p> <p>○「市川市立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する方針」検討の視点</p> </div>                                                                                                         |
|    | 8     | 22 | <p>○審議：学校の適正規模について②</p> <p>学校教育の方向性について①</p> <div> <p>○学校の適正規模に関する方針（案）について</p> <p>○通学区の弾力化の方向性</p> <p>○学校施設活用の基本的な方針（学校に必要な教室数や活用の方針）</p> </div>                                                                                        |
|    | 10    |    | 定例教育委員会【適正規模方針の報告】                                                                                                                                                                                                                       |
|    | 11    |    | <p>○審議：学校教育の方向性について②</p> <p>学校の適正配置について①</p> <div> <p>○義務教育学校設置の方向性</p> <p>○学校の状況の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正規模とならない学校の状況</li> <li>・学校毎の児童生徒数の推計</li> <li>・学校毎の余裕教室数の推計</li> </ul> <p>○適正規模化を進める地区割りの設定</p> </div> |
| 29 | 1     |    | <p>○審議：学校の適正配置について②</p> <div> <p>○検討の視点の整理</p> <p>○検討の視点に基づく適正配置の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・想定される適正配置のパターン</li> </ul> </div>                                                                                        |
|    | 3     |    | 定例教育委員会【適正配置方針の策定方針の報告】                                                                                                                                                                                                                  |
| 29 | 7・8   |    | <p>○審議：学校の適正配置について③④</p> <div> <p>○地区別の適正配置の方針</p> </div>                                                                                                                                                                                |
|    | 10・11 |    | <p>○審議：学校の適正配置について⑤⑥</p> <div> <p>○適正配置方針に基づく学校施設毎の方針</p> </div>                                                                                                                                                                         |
| 30 | 1     |    | ○答申：学校の適正規模・適正配置に関する方針                                                                                                                                                                                                                   |
|    | 3     |    | 定例教育委員会【適正規模・適正配置方針（学校施設の個別計画）の策定】                                                                                                                                                                                                       |
|    | 4     |    | 地区別協議会の設置・地区別実施計画の策定                                                                                                                                                                                                                     |

### 第3回 市川市教育振興審議会補助資料 学校規模及び学級規模別の実態調査の結果

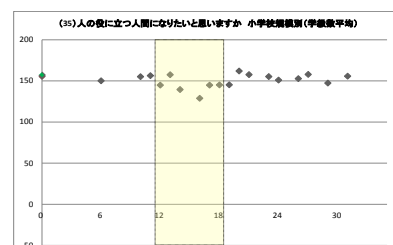
#### 《調査の内容について》

| 調査名                                    | 調査の対象                                  | 調査年度 | 調査の実施 |
|----------------------------------------|----------------------------------------|------|-------|
| ○学力学習状況調査<br>・児童生徒質問紙                  | ・市立小・中・義務学校の小学校6年生・中学校3年生が質問に回答        | 27年度 | 文部科学省 |
| ○学力学習状況調査<br>・学校質問紙                    | ・市立小・中・義務学校の小学校6年生・中学校3年生について学校長が質問に回答 | 27年度 |       |
| ○学力学習状況調査<br>・教科に関する調査                 | ・市立小・中・義務学校の小学校6年生・中学校3年生が調査の対象        | 27年度 |       |
| ○児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査             | ・市立小・中・義務学校の全児童生徒が調査の対象                | 26年度 |       |
| ○市川市教育振興基本計画の施策の評価に関わる調査<br>・児童生徒アンケート | ・市立小・中・義務学校の小学校5年生・中学校2年生が質問に回答        | 27年度 | 教育委員会 |
| ○市川市教育振興基本計画の施策の評価に関わる調査<br>・保護者アンケート  | ・市立小・中・義務学校の小学校5年生・中学校2年生の保護者が質問に回答    | 27年度 |       |
| ○市川市教育振興基本計画の施策の評価に関わる調査<br>・教職員アンケート  | ・市立幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校の教職員が質問に回答 | 27年度 |       |
| ○学校評価                                  | ・市立幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校の保護者が質問に回答 | 27年度 |       |
| ○新体力テスト                                | ・市立小・中・義務学校の全児童生徒が調査の対象                | 27年度 |       |
| ○ライフスタイル調査                             | ・市立小・中・義務学校の全児童生徒が質問に回答                | 27年度 |       |
| ○現状調査<br>・eライブラリアクセスログ集計               | ・市立小・中・義務学校が調査の対象（学校毎に集計）              | 26年度 |       |
| ○現状調査<br>・教職員の配置状況                     | ・市立小・中・義務学校が調査の対象（学校毎に集計）              | 28年度 |       |
| ○現状調査<br>・学校予算集計                       | ・市立小・中・義務学校が調査の対象（学校毎に集計）              | 27年度 |       |

#### 《集計の方法について》

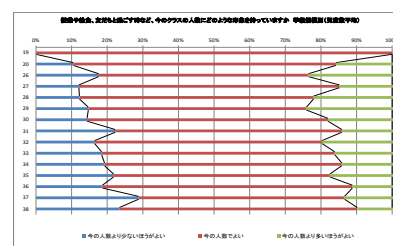
##### ○ 4つの選択肢（2段階のプラス評価及びマイナス評価）によって回答を求める設問

- ・ 各学校の回答状況を点数化し、学級数及び1学級の児童生徒数ごとに平均点数を算出して、分布図に表わす。
- ・ 点数は、プラス評価及びマイナス評価の割合によって、2,1,-1,-2点をそれぞれの回答割合に乗じて算出する。最大で200点（2点×100%）、最小で-200点（-2点×100%）となる。



##### ○ 具体的な内容を複数の選択肢から回答を求める設問

- ・ 各学校の回答の割合を、学級数及び1学級の児童生徒数ごとの平均に算出し直し、グラフに表わす。



## 《調査の結果》

### 1 教育的な視点からの現状

#### (1)「確かな学力」の面

##### ① 学習の状況

###### ○ 学習・授業の理解

- ・ 国語、算数・数学、理科について調査を実施しているが、学習内容の理解度についてが、学校規模、学級規模による明確な差は見られない。また、学力調査から見る「知識・理解」「活用する力」についても、差は見られない。
- ・ 国語、算数・数学、理科に限らず、学習全般について、授業の理解度は、学校規模、学級規模による明確な差は見られない。

###### ○ 言語活動

- ・ 言語活動については、「自分の考えを話すこと」「人の話を聞くこと」「話し合いを通して考えを深め、広げること」とともに、学校規模、学級規模による明確な差は見られない。

##### 【調査内容】

- ・ 国語の授業の内容は分かりますか<児童生徒質問紙>
- ・ 算数・数学の授業の内容は分かりますか<児童生徒質問紙>
- ・ 理科の授業内容は分かりますか<児童生徒質問紙>
- ・ 国語<教科に関する調査>
- ・ 算数・数学<教科に関する調査>
- ・ 理科<教科に関する調査>
- ・ 授業が良くわかる<児童生徒アンケート>
- ・ 授業がわかりやすい<学校評価>
- ・ 自分の考えを発表することは得意<児童生徒質問紙>
- ・ 自分の考えを伝えることができますか<児童生徒アンケート>
- ・ 自分の考えを相手に伝えている<学校質問紙>
- ・ 友だちの話を最後まで聞くことができる<児童生徒質問紙>
- ・ 人の話を聞くことができますか<児童生徒アンケート>
- ・ 相手の考えを最後まで聞く<学校質問紙>
- ・ 話し合いを通して、考えを深め、広げる<児童生徒質問紙>
- ・ 話し合いで自分の考えを深めたり広げたりする<学校質問紙>

##### ② 学習への関わり

- ・ 学習意欲や学習態度について、学校規模、学級規模による明確な差は見られない。

##### 【調査内容】

- ・ 学校の勉強は楽しい<児童生徒アンケート>
- ・ 興味を持って取り組む<学校評価>
- ・ 熱意を持って学習していますか<学校質問紙>
- ・ 授業中に落ち着いている<学校質問紙>
- ・ 授業の中で分からないことがあった時どうしますか<児童生徒質問紙>

#### (2)「豊かな心」の面

##### ① 人との関わり

- ・ 友達との関わり方については、学校規模、学級規模による差はなく、人の役に立ちたいという思いにも差は見られない。

##### 【調査内容】

- ・ 友だちを大切に作る<児童生徒アンケート>
- ・ 誰とでも優しく関わっている<学校評価>
- ・ 人の役に立つ人間になりたい<児童生徒質問紙>

## ② 自尊意識

- ・ 学校規模については、顕著ではないが、小学校で、学級数が多く規模の大きい学校ほど高くなる傾向がみられる。中学校では差は見られない。
- ・ 学級規模については、小学校で、20 人以下の学級よりも、25 人以上の学級の方が高い傾向がある。中学校では明確な差は見られない。

【調査内容】  
・ 自分には良いところがある<児童生徒質問紙>  
・ 自分には良いところがある<児童生徒アンケート>

## ③ 規範意識

- ・ 学校のきまり・規則を守るという規範意識は、学校規模、学級規模による差は見られない。
- ・ いじめは許されないとする意識は、学校規模、学級規模による差は見られないが、いじめの認知件数については、小学校で、規模の大きい学校ほど低くなる傾向が見られる。小学校の学級規模、中学校の学校規模、学級規模による差は見られない。
- ・ 礼儀の正しさについては、学校規模、学級規模による差は見られない。

【調査内容】  
・ 学校のきまり・規則を守っている<児童生徒質問紙>  
・ いじめはどんな理由があってもいけない<児童生徒質問紙>  
・ いじめはどんな理由があってもいけなく<児童生徒アンケート>  
・ いじめの認知件数<生徒指導に関する調査>  
・ 礼儀正しい<学校質問紙>

## ④ 学校生活

- ・ 学校へ行くのが楽しいと感じる割合は、学校規模、学級規模による差は見られない。学級みんなで協力して物事を成し遂げて達成感を味わったり、自分の役割に責任を持ったりする姿勢については、学校規模、学級規模による差は見られない。
- ・ 不登校については、小学校では 19 学級以上の学校から増えている傾向がみられるが、中学校では明確な差は見られない。また、学級規模については、小中学校共に、1 クラス 30 人前後の学級から増えている傾向がみられる。

【調査内容】  
・ 学校へ行くのは楽しい<児童生徒質問紙>  
・ 協力してやり遂げ、うれしい<児童生徒質問紙>  
・ 自分の役割に責任を持つ<学校評価>  
・ 不登校の出現率<生徒指導に関する調査>

## (3)「健やかな体」の面

### ① 運動への関わり

- ・ 運動を好み、進んで運動に取り組む割合は、小中学校共に学校規模による差は見られない。
- ・ 休み時間などに外へ出て遊ぶ割合は、小学校では学校規模による差はあまり見られないが、中学校では 27 学級で特に少なくなっている。

【調査内容】  
・ 運動が好き<ライフスタイル調査>  
・ 運動に進んで取り組む<学校評価>  
・ 休み時間や昼休みなどに体育館や運動場で遊ぶ<ライフスタイル調査>

### ② 体力の状況

- ・ 新体力テストの調査については、学校規模、学級規模による差は見られない。

【調査内容】  
・ 新体力テスト 総合得点 Tスコア<新体力調査>

## 2 運営的な視点からの現状

### (1)「学習指導」の面

#### ① 学習規律

- ・ 学習規律徹底の面では、学校、学級ともに、規模による差は見られない。

【調査内容】 ・ 学習規律の維持を徹底しましたか<学校質問紙>

#### ② 指導形態

##### ○ 教科担任制

- ・ 小学校における算数の教科担任制の実施には、学校規模による差は見られない。

##### ○ 少人数学習

- ・ 算数・数学では、小・中学校ともに、習熟の遅いグループに対する少人数指導、習熟の早いグループに対する発展学習の実施に、学校規模、学級規模による差は見られない。

##### ○ ティーム・ティーチング

- ・ 算数・数学では、小・中学校ともに、ティーム・ティーチングによる指導の回数に、学校規模、学級規模による差は見られない。
- ・ 理科では、小・中学校ともに、ティーム・ティーチングによる指導の回数に、学校規模、学級規模による差は見られない。

【調査内容】 ・ 算数の授業で、教科担任制を実施していましたか<学校質問紙>  
・ 算数・数学で、習熟の遅いグループに少人数指導を行い、習熟できるようにしましたか<学校質問紙>  
・ 算数・数学で、習熟の早いグループに少人数指導を行い、発展的な内容を扱いましたか<学校質問紙>  
・ 算数・数学で、ティーム・ティーチングによる指導を行いましたか<学校質問紙>  
・ 理科で、ティーム・ティーチングによる指導を行いましたか<学校質問紙>

#### ③ 指導方法

##### ○ 言語活動

- ・ 言語活動に関する指導では、発表する機会の設定や、発言や活動の時間の確保、話し合いの場の設定については、学校規模、学級規模による差は見られない。

##### ○ 課題解決的な学習

- ・ 課題解決的な学習については、小・中学校共に、学校規模による差は見られない。しかし学級規模では、小学校で、20 人前後の学級で低く、25 人以上の学級で高くなる傾向が見られた。また、中学校でも、1 クラスの人数が多いほど取り組みが多くなる傾向が見られた。

##### ○ 資料活用・体験学習

- ・ 資料の活用力を伸ばす場や、体験的な学習の場の設定については、学校規模、学級規模ともに差は見られない。

【調査内容】 ・ 発表する機会が与えられていた<児童生徒質問紙>  
・ 話し合う活動をよく行っていた<児童生徒質問紙>  
・ 学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか<学校質問紙>  
・ 発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか<学校質問紙>  
・ 課題を立て、情報を整理し、発表する活動<児童生徒質問紙>  
・ 自ら課題を設定し、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか<学校質問紙>

#### ④ 施設・教材活用

##### ○ 施設活用

- ・ 博物館や図書館に利用については、小・中学校共に、学校規模、学級規模による差は見られない。
- ・ 理科室の活用については、学校規模については、小・中学校共に差は見られないが、学級規模については、中学校で、1 クラス 37～38 人程度に多くなると、活用頻度が少なくなる傾向が見られる。
- ・ 学校図書館の活用については、小・中学校共に学校規模、学級規模による差は見られない。

##### ○ 教材活用

- ・ パソコン教材の活用については、小学校で、学級数が増えるほど少なくなる傾向が見られる。中学校では、明確な差は見られない。

- 【調査内容】
- ・ 博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか<学校質問紙>
  - ・ 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか<児童生徒質問紙>
  - ・ 理科室で児童生徒が観察や実験をする授業を 1 クラス当たりどの程度行いましたか<学校質問紙>
  - ・ 学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか<学校質問紙>
  - ・ e ライブラリアクセスログ集計（年間 1 人あたりの教材選択回数）<現状調査>

#### ⑤ 地域人材の活用

- ・ 保護者や地域人材を外部講師として招く場合については、小・中学校共に、学校規模、学級規模による差は見られない。
- ・ 保護者や地域人材に、授業補助として授業に入ってもらう場合については、小学校で、学校規模では 20 学級程度以上から少なくなり、学級規模では人数が多くなるに従って少なくなり、35 人以上で、さらに少なくなる傾向が見られる。中学校は、学校規模、学級規模ともに差は見られない。

- 【調査内容】
- ・ 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか<学校質問紙>
  - ・ ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか<学校質問紙>
  - ・ 学校は、保護者や地域の人材を活用した教育活動を積極的に行っている<学校評価>

#### ⑥ 補充学習

- ・ 放課後などを利用した補充的な学習については、小・中学校共に、学校規模、学級規模による明確な差は見られない。

- 【調査内容】
- ・ 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか<学校質問紙>

### （２）「生徒指導」の面

#### ① 児童生徒の主体性を高める活動

- ・ 学級の決まりを全員で話し合ったり、全員で課題に取り組んだりする場の設定については、小・中学校共に、学校規模、学級規模による明確な差は見られない。
- ・ 児童生徒のよい点を見つけて評価することについては、小・中学校共に学校規模、学級規模による差は見られない。

- 【調査内容】
- ・ 友達同士で話し合っって学級の決まりなどを決めていると思いますか<児童生徒質問紙>
  - ・ 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか<学校質問紙>
  - ・ 児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、児童生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか<学校質問紙>

## ② 児童生徒の把握

### ○ 家庭学習

- ・ 家庭学習の指導・評価面からの把握は、国語・算数・数学、理科のどの教科においても、小・中学校共に、学校規模、学級規模による差は見られない。

### ○ 学校生活

- ・ 児童生徒の意識として、「自分のことを良く知っている」と感じる割合は、小・中学校共に、学校規模による明確な差は見られないが、学級規模では、中学校で、人数が多くなるほど多くなる傾向が見られる。小学校では特に差は見られない。
- ・ 児童生徒の意識として、「学習で躓いているところを知っている」と感じる割合は、小・中学校共に、学校規模、学級規模による明確な差は見られない
- ・ 児童生徒の意識として、「先生が気軽に話を聞き、相談に乗ってくれる」と感じる割合は、学校規模では、中学校で、学級数が多くなるほど増える傾向が見られる。小学校では特に差は見られない。学級規模では、小・中学校共に人数が増えるほど多くなる傾向が見られ、1クラス 26～27 人ぐらいから増えている。
- ・ 教職員の意識として、子どもと向き合っていると感じる割合は、小・中学校ともに学校規模が大きくなるに従って少なくなる傾向があり、中学校では、20 学級以上で、より少なくなる傾向が見られる。学級規模では、小学校で、人数が多くなるのに従って少なくなる傾向が見られる。中学校では、特に差は見られない。

#### 【調査内容】

- ・ 国語で、児童生徒の与えた家庭学習の課題について、評価・指導しましたか＜学校質問紙＞
- ・ 算数・数学で、児童生徒の与えた家庭学習の課題について、評価・指導しましたか＜学校質問紙＞
- ・ 理科で、児童生徒の与えた家庭学習の課題について、評価・指導しましたか＜学校質問紙＞
- ・ 「先生は、私のことをよく知っていると思ったこと」はどのくらいありましたか＜児童生徒アンケート＞
- ・ 「先生は、私が勉強でわからないところをよく知っていると思ったこと」はどのくらいありましたか＜児童生徒アンケート＞
- ・ 「先生は、気軽に話を聞き、相談に乗ってくれると感じたこと」はどのくらいありましたか＜児童生徒アンケート＞
- ・ 学校では、子どもとじっくり向き合うことができていると思いますか＜教職員アンケート＞

## ③ 交流活動

- ・ 異学年との交流活動については、中学校で、学級数が多くなるに従って増える傾向が見られる。小学校では、特に差は見られない。学級規模については、小・中学校共に、特に差は見られない。

#### 【調査内容】

- ・ 違う学年の子と一緒に活動する＜児童生徒アンケート＞

### (3)「職員体制」の面

#### ① 協力・共有体制

##### ○ 協力体制

- ・ 学習指導や学習評価面での協力体制については、小・中学校共に、学校規模、学級規模による明確な差はみられない。

##### ○ 情報の共有

- ・ 学校運営や学習指導、生徒指導面などに関する課題や情報の共有については、小・中学校共に、学校規模、学級規模による明確な差はみられない。

#### 【調査内容】

- ・ 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか<学校質問紙>
- ・ 学習指導と学習評価の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか<学校質問紙>
- ・ 言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか<学校質問紙>
- ・ 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか<学校質問紙>
- ・ 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる<学校質問紙>

#### ② 研修・行事等への対応体制

##### ○ 研修等への対応

- ・ 学校外の研修会への参加については、学校規模では、小学校で、規模の大きい学校の方が多い傾向が見られる。中学校については、特に差は見られない。学級規模では、小・中学校共に差はみられない。
- ・ 校長が校内を見て回る頻度は、小中学校共に、学校規模、学級規模による差は見られない。

##### ○ 行事等への対応

- ・ 教職員の意識として、学校行事や学年行事を行う上での、現在の教職員の数の印象について、学校規模では、小学校で、11 学級以下の学校で「今よりも教職員の数が多いほうが良い」と考える割合がおよそ 80%、またはそれ以上となっている。また、24 学級以上では、「今より少ないほうが良い」と考える割合が、23 学級以下より多くなる傾向が見られる。中学校では明確な差は見られない。
- ・ 教職員の意識として、学校行事や学年行事を行う上での、現在の教職員の数の印象について、学級規模では、小学校で、1 クラス 19 人以下の学級で、「今よりも教職員の数が多いほうが良い」と考える割合が 90%以上となっており、20 人以上の学級に比べて極端に多くなっている。中学校では明確な差は見られない。

#### 【調査内容】

- ・ 教員が、学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか<学校質問紙>
- ・ 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか<学校質問紙>
- ・ 学校行事や学年活動を行うとき、今の学校の教職員数について、どのような印象を持っていますか<教職員アンケート>

### ③ 教職員の配置状況

- ・ 教職員定数による配置及び加配による配置を合計した現在の状況について、1 学級あたりの教職員数は、小・中学校共に学級数が多い方が少ない傾向が見られる。小学校では、12 学級以下で概ね 1.5 人以上、13 学級以上で概ね 1.5 人以下となっており、中学校では、11 学級以下で 2 人以上、15 学級以上で 2 人以下となっている。
- ・ 教職員定数による配置及び加配による配置を合計した現在の状況について、1 学年あたりの担任外の教職員数は、小・中学校共に、学級数が増えるに従って多くなる傾向が見られる。小学校では、18 学級以下で 0.5 人以上 1.5 人未満、19 学級以上で 1 人以上 3 人以下となっている。中学校では、15 学級以下で 5 人以下、18 学級以上で 5 人以上 7 人以下となっている。

【調査内容】 ・ 教職員の配置状況＜現状調査＞

## （４）「保護者・地域への対応」の面

### ① 保護者に対する学校環境

- ・ 授業参観や学校行事への保護者の参加状況は、小・中学校ともに学校規模、学級規模による差は見られない。
- ・ PTA 活動については、小学校で、学校規模が大きくなるほど参加が少なくなる傾向にあり、24 学級以上では、マイナスの評価も見られる。また、学級規模についても、1 クラスの人数が多くなるほど、参加が少なる傾向が見られ、36 人学級以上ではマイナスの評価も見られる。中学校では、学校規模、学級規模ともに明確な差は見られない。
- ・ 保護者の意識として、学校側が、学校行事等に参加しやすい環境を整えていると考える割合は、小・中学校ともに学校規模による差は見られない。また、保護者の意見が学校運営に反映されていると考える割合も、小・中学校ともに学校規模、学級規模による差は見られない。
- ・ 保護者の意識として、学校が相談しやすい環境であると考えた割合は、学校規模では、中学校で、学級数が少ない方が多い傾向が見られる。特に、5、9 学級は 12 学級以上に比べて高くなっている。小学校については、特に差は見られない。学級規模については、小・中学校共に差は見られない。
- ・ 現在の学校規模に対する保護者の意識について、小学校では、学校行事に参加したり、学校と相談したりする上で「今より多いほうが良い」と考える割合は、13 学級以下の学校で概ね 30%以上となっており、6 学級で 50%以上に達している。一方、「今より少ないほうが良い」と考える割合は、24 学級以上の学校で 25%以上となっており、31 学級では 50%を超えている。
- ・ 現在の学校規模に対する保護者の意識について、中学校では、学校行事に参加したり、学校と相談したりする上で「今より多いほうが良い」と考える割合は、9 学級の学校で概ね 50%、5 学級で 65%以上となっている。一方、「今より少ないほうが良い」と考える割合は、20～24 学級の学校で概ね 30%、27 学級で 50%以上となっている。
- ・ 現在の学級規模に対する保護者の意識について、小学校では、学校行事に参加したり、学校と相談したりする上で「今より多いほうが良い」と考える割合は、1 学級 20 人以下の学級で 60%以上となっており、27 人以上で概ね 20%以下となっている。一方、「今より少

ない方が良い」と考えている割合は、36人以上で20%以上となっている。

- ・ 現在の学級規模に対する保護者の意識について、中学校では、学校行事に参加したり、学校と相談したりする上で「今より多い方が良い」と考える割合は、28人で65%以上、27人で概ね50%となっており、31人以上で5%以下となっている。一方、「今より少ない方が良い」と考えている割合は、34人以上で20%以上、36人で50%以上となっている。

【調査内容】

- ・ 家の人は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか<児童生徒質問紙>
- ・ PTA 活動や家庭教育学級に積極的に参加していますか<保護者アンケート>
- ・ 学校は、保護者や地域の方が、学校行事等に参加しやすい環境を整えている<学校評価>
- ・ 保護者のご意見が学校運営に反映されていますか<保護者アンケート>
- ・ お子様に通っている学校は、お子様のことについて相談しやすいですか<独自調査保護者アンケート>
- ・ 学校行事に参加したり、学校と相談したりするとき、今の学校の学級数や児童生徒数について、どのような印象を持っていますか<保護者アンケート>

② 地域に対する学校環境

- ・ 児童生徒の地域行事への参加については、小・中学校共に、学校規模、学級規模による差は見られない。

【調査内容】

- ・ 今住んでいる地域の行事に参加していますか<学校評価>

(5)「学校・学級の適正規模の印象」の面

① 児童生徒の印象

- ・ 現在の学級規模に対する児童生徒の意識について、小学校では、授業や休み時間など、学校生活を過ごす上で、「今より少ない方が良い」と考える割合が、人数が多くなるに従って増えていく。中学校では明確な差は見られない。

【調査内容】

- ・ 授業や給食、友だちと過ごす時など、今のクラスの人数にどのような印象を持っていますか<児童生徒アンケート>

② 保護者の印象

○ 学校行事・学年活動

- ・ 現在の学校規模（学級数や児童生徒数）に対する保護者の意識について、小学校では、児童が学校行事や学年活動を行う上で、「今よりも多いほうが良い」と考えている割合が、11学級以下では40%以上、12～13学級で30%以上となっており、19学級以上で10%未満となっている。一方、「今よりも少ない方が良い」と考えている割合は、26学級以上で25%以上となっており、31学級では50%に達している。「今よりも多いほうが良い」「今よりも少ない方が良い」が共に少なく、「ちょうど良い」と考える割合が概ね70%、またはそれ以上を、保護者の印象としての適正と見た場合、14学級以上24学級以下が適正となる。
- ・ 現在の学校規模（学級数や児童生徒数）に対する保護者の意識について、中学校では、生徒が学校行事や学年活動を行う上で、「今よりも多い方が良いと考えている」割合は、9学級で45%以上、5学級で85%以上となっており、14学級以上で10%未満となっている。一方、「今よりも少ない方が良い」と考えている割合は、20学級以上で20%以上となっ

おり、27 学級で 50%以上となっている。「今よりも多いほうが良い」「今よりも少ない方が良い」が共に少なく、「ちょうど良い」と考える割合が概ね 70%、またはそれ以上を、保護者の印象としての適正と見た場合、12 学級以上 19 学級以下が適正となる。

- ・ 現在の学級規模（児童生徒数）に対する保護者の意識について、小学校では、児童が学校行事や学年活動を行う上で、「今よりも多いほうが良い」と考えている割合が、20 人以下で 60%以上となっており、29 人以上で 20%未満となっている。一方、「今よりも少ない方が良い」と考えている割合は、36 人以上で 20%以上となっている。「今よりも多いほうが良い」「今よりも少ない方が良い」が共に少なく、「ちょうど良い」と考える割合が概ね 70%、またはそれ以上を、保護者の印象としての適正と見た場合、29 人以上 35 人以下が適正となる。
- ・ 現在の学級規模（児童生徒数）に対する保護者の意識について、中学校では、生徒が学校行事や学年活動を行う上で、「今よりも多いほうが良い」と考えている割合が、28 人以下で 45%以上となっており、29 人及び 30 人以上で 10%未満となっている。一方、「今よりも少ない方が良い」と考えている割合は、34 人以上で 20%以上となっている。「今よりも多いほうが良い」「今よりも少ない方が良い」が共に少なく、「ちょうど良い」と考える割合が概ね 70%、またはそれ以上を、保護者の印象としての適正と見た場合、29 人以上 35 人以下が適正となる。

#### ○ 学習・学級活動

- ・ 現在の学級規模（児童生徒数）に対する保護者の意識について、小学校では、児童が学習や学級活動をする上で、「今よりも多い方が良い」と考える割合は、26 人以下で 20%以上となっており、29 人以上で 10%以下となっている。一方、「今よりも少ない方が良い」と考える割合は、29 人以上の学級から多くなり、32 人以上で 20%以上、36 人以上で 40%となっている。「今よりも多いほうが良い」「今よりも少ない方が良い」が共に少なく、「ちょうど良い」と考える割合が概ね 70%、またはそれ以上を、保護者の印象としての適正と見た場合、26 人以上 35 人以下が適正となる。
- ・ 現在の学級規模（児童生徒数）に対する保護者の意識について、中学校では、生徒が学習や学級活動をする上で、「今よりも多い方が良い」と考える割合が、28 人で 40%、27 人で約 20%となっており、31 人以上で 10%未満となっている。一方、「今よりも少ない方が良い」と考える割合は、33 人以上で 20%以上となっており、36 人で 40%以上となっている。「今よりも多いほうが良い」「今よりも少ない方が良い」が共に少なく、「ちょうど良い」と考える割合が概ね 70%、またはそれ以上を、保護者の印象としての適正と見た場合、29 人以上 35 人以下が適正となる。

#### 【調査内容】

- ・ 学校行事や学年活動を行うとき、今の学校の学級数や児童生徒数について、どのような印象を持っていますか<保護者アンケート>
- ・ 学級で学習や活動を行うとき、今の学級の児童生徒数について、どのような印象を持っていますか<保護者アンケート>

### ③ 教職員の印象

#### ○ 学校行事・学年活動

- ・ 現在の学校規模（学級数や児童生徒数）に対する教職員の意識について、小学校では、児童が学校行事や学年活動を行う上で、「今よりも多い方が良い」と考えている割合は、11 学級以下で 20%以上となっており、17 学級以上で 10%未満となっている。一方、「今よりも少ない方が良い」と考える割合は、21 学級以上で 60%以上、27 学級以上校で 80%以上となっており、11 学級以下では 15%以下となっている。「今よりも多いほうが良い」または「今よりも少ない方が良い」が多く、一方に偏っていると見られる規模を、課題のある学校規模とした場合、11 学級以下及び 21 学級以上が課題のある学校規模となる。
- ・ 現在の学校規模（学級数や児童生徒数）に対する教職員の意識について、中学校では、生徒が学校行事や学年活動を行う上で、「今よりも多い方が良い」と考えている割合は、9 学級以下で 40%以上となっており、14 学級以上で 10%未満となっている。一方、「今よりも少ないほうが良い」と考える割合は、19 学級以上で 50%を超えており、21 学級以上で 70%以上となっている。12 学級以下の学校では 20%未満となっている。「今よりも多いほうが良い」または「今よりも少ない方が良い」が多く、一方に偏っていると見られる規模を、課題のある学校規模とした場合、12 学級未満及び 19 学級以上が課題のある学校規模となる。

#### ○ 学習・学級活動

- ・ 現在の学級規模（児童生徒数）に対する教職員の意識について、小学校では、学習指導や学級活動を行う上での適正人数について、21 人～25 人と 26～30 人が同程度で一番多く、中学校では、26～30 人が一番多くなっている。全体の割合が多い人数を、教職員の印象としての適正と見た場合、小学校で 21 人以上 30 人以下、中学校で 26 人以上 30 人以下が適正となる。

- 【調査内容】
- ・ 学校行事や学年活動を行うとき、今の学校の学級数や児童生徒数について、どのような印象を持っていますか＜教職員アンケート＞
  - ・ 教科指導や学級活動を行うとき、1 クラスの人数は何人ぐらいが適正だと思いますか＜教職員アンケート＞

### 3 財政的な視点からの現状

#### ① 児童生徒一人当たりの配当額

- ・ 児童生徒一人当たりの配当額については、小中学校共に、規模の大きい学校の方が少ない傾向が見られる。学級数の増加に伴う減少幅は、12 学級以上から少なくなる。

#### ② 1 学級あたりの配当額

- ・ 1 学級あたりの配当額については、小中学校共に、規模の大きい学校の方が少ない傾向が見られる。学級数の増加に伴う減少幅は、12 学級以上から少なくなる。

- 【調査内容】
- ・ 学校予算集計＜現状調査＞